

週目点

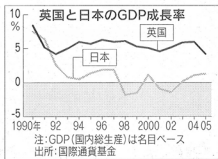


早稲田大学教授

川本 裕子

英国のブレア首相が二十七日、退陣しブラウン財務相が後継首相に就任する。かつて大英帝国の威容を誇った英国だが、現在の経済規模は日本より小さい。しかし近年も世界が注目する指導者を生むその政治風土は注目すべきだ。

その代表であるサッチャー元首相とブレア氏に共通するのは指導者としての優れた洞察力だ。二人は当時の政治的な常識にあえて挑戦した。サッチャー



▶英首相にブラウン氏就任(27日)

指導者生む風土に学べ

氏の場合は「英国病」だった。高い失業率や強力な労働組合などに、当時の政治的指導層は打つ手がなかった。サッチャー氏は民間活力、競争原理の導入を推進し、まん延していた悲観主義を克服できることを示した。ブレア氏は労働党の党是だった国有化政策の放棄を明言。政敵・保守党の市場重視の経済政策を実質的に継承し、経済成長を確実にした。ブラウン氏は現政権を中核で支えてきたので政策の連続性は確保されるだろう。財務相の就任初日に英中央銀行、イングランド銀行の政府からの独立を宣言した行動力も注目される。

年金問題で揺れる日本の政治では参院選を意識した対応が目立つ。だが、流行・軽信の風潮に流されず、優れた洞察力により国民の支持を勝ち得ていく英国の優れたリーダーに、日本の指導者は学ばべきだろう。